

議員（金井 浩三）

一般質問、8番、金井 浩三。小学校の統合について、この1問だけでございます。

去る5月1日、金曜日、町民会議会長・副会長会の資料の中に生徒の数、令和4年から令和5年度、多度津中学校533名から513名、多度津小学校242名から251名、豊原小学校428名から422名、四箇小学校304名から296名、白方小学校64名から55名、生徒の数が目に見えて少なくなっています。

そして白方小学校の生徒の内訳、1年生5名、2年生11名、3年生7名、4年生12名、5年生12名、6年生14名、計55名です。そして白方地区の5歳児10名、4歳児7名、3歳児10名、そして5歳児の地区は、東白方2名、西白方2名、奥白方4名、見立ゼロ、西港町2名の計10名でございます。

そこで質問します。最近聞いたのですが、白方地区の生徒が四箇小学校に通学されていると聞きました。何名の生徒で何学年ですか、答えて下さい。

教育長（三木 信行）

金井議員の白方小学校校区児童で四箇小学校に校区外就学をしている児童についてのご質問に答弁をさせていただきます。

白方小学校校区から四箇小学校へ校区外就学をしている児童につきましては、全体で8名です。

その内訳につきましては、1年生が1名、2年生が1名、3年生が1名、4年生が3名、5年生が2名です。

なお、四箇小学校校区から白方小学校へ校区外就学している児童が2名おり、5年生・6年生でそれぞれ1名です。以上、答弁とさせていただきます。

議員（金井 浩三）

有難うございました。そして、その生徒はなぜ四箇小学校になったのですか、教えてください。

教育長（三木 信行）

金井議員の四箇小学校へ通学する理由についてのご質問に答弁をさせていただきます。

白方小学校や四箇小学校に限らず、児童の就学する小学校又は就学している小学校の変更については、校区外就学申請書を提出し、教育委員会においてその内容を審査し、認められた場合に許可されるものです。

認められる事由としては、「転居によるもの」、「家庭の事情」、「健康上の理由」、「教育的な配慮」、「生活環境・地理的条件」等となっています。

ご質問の四箇小学校へ校区外通学する理由については、通学距離が白方小学校よりも近い「地理的条件」や両親が共働き等により祖父母宅へ帰宅する「家庭の事情」、「教育的な配慮」を要するなどの理由であります。以上、答弁とさせていただきます。

ます。

議員（金井 浩三）

有難うございます。私は今年、四箇小学校の入学式での挨拶で、新入生にたくさんの友達を作ってくださいと挨拶をしました。5名の入学では、多くの友達の考えに触れる機会や友達と切磋琢磨して自分を鍛える環境と言えるのでしょうか、お答え下さい。

教育長（三木 信行）

金井議員の5名の入学で多くの友達の考えに触れる機会や友達と切磋琢磨して自分を鍛える環境と言えるのかについてのご質問に答弁をさせていただきます。

白方小学校につきましては、平成元年頃より全学年が1学級となっており、児童数は減少傾向が続いています。

議員ご指摘のように少人数のクラスでは様々な個性を持つ友達の考えに触れる機会が少なくなり、固定化された関係の中で、友達と切磋琢磨出来るという環境も出来にくい状況になることは考えられます。

一方で、少人数校は、異学年間の交流が盛んであることや児童一人ひとりに目の行き届いた、きめ細やかな指導が出来る利点もあります。

また、少人数校であっても学習指導の工夫により、共同して学んだり、切磋琢磨して高め合う場を作ったりすることは可能です。加えて、少人数の機動性を生かして多様な体験活動を行うことも出来ます。

少人数であることのメリット・デメリットを理解した上で、学校運営をすることが大切だと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（金井 浩三）

済みません。答弁書で再質問させていただきます。

固定化された関係の中で友達と切磋琢磨出来るという環境も出来にくい状況になる。と考えられます。そしてもう一つは、少人数であっても学習指導の工夫により共同して学んだり、切磋琢磨して高め合う場を作ったりすることは可能です。済みません、これもう少し詳しい説明をよろしくお願いします。

教育長（三木 信行）

金井議員の再質問について答弁をさせていただきます。

先ほど述べた私の少人数校であつてのメリットに関係することだろうと思います。例えば、学習指導って言いますと、まず私自身、白方小学校へ学校訪問等で出向く訳ですけれども、子供達は活動的に学習活動をしております。今、国や県が推進している個の個別の興味関心とか、深度の理解度に合わせた個別最適化された学習について、小人数であるために一人一人の興味関心に合わせた事業が出来るという利点もあります。そして、例えば3人・4人・5人であつたとしても、その中で非常に緻密な共同学習が仕組むことも出来ます。その範囲の中で切磋琢磨出来る環境

も出来るという風に考えております。それから例えば、異学年の交流ということがあります。幾つかの学年の中であれば、違った学年でともに活動する中で、プラスの面も現れることが出来ます。今年の運動会、去年の運動会を見ていたんですけども異学年交流によって様々な取組が出来ています。例えば運動会では、学年を4つの色別のチームに分けて活動していました。運動会を最初に白方小学校の伝統の応援合戦を行う訳ですけども、それぞれ縦割りの中で、児童達は生き生きと活動をしていて、している児童も見て大人の方も非常に楽しい種目であったという風に感じています。

あと少人数であることが機動性ということで、例えば修学旅行に行ったり、体験的な活動をする時に、小人数であるが故に機動性を持って、例えば色んな見学地であるとか、色んなイベントとか一緒に参加しやすいということもありますし、活動の中でも大勢いるのではないので、個々に深い体験が出来るというようなメリットもあります。そういう意味で、小人数学級であったとしてもメリットはあるというあたりのところを申し上げました。以上、答弁とさせていただきます。

議員（金井 浩三）

有難うございました。やはり学校の先生の答弁ですね。

それでは次にまいります。令和6年になり6年生14名が卒業して、5歳児10名が全員入学したとしても全生徒51名、令和7年、12名の生徒が卒業し、4歳児7名で全員入学したとして46名、このような状況をどのように考えているのですか。教育者として、教育長にお聞きします。

教育長（三木 信行）

金井議員の現在の白方小学校の状況をどのように考えるかについてのご質問に答弁をさせていただきます。

小学校の適正規模については、平成30年9月に定めた「多度津町立幼稚園・小学校の適正規模・適正配置に係る基本方針について」の中で、学級の標準規模は35人から40人規模とし、複式学級の出現を避ける。学校の規模としては、1学年2学級から3学級の規模とし、「同年齢の集団の中で自立心を養い、切磋琢磨しながら成長できる環境を整える。」としております。

ここで付け加えますが、現状の香川県では35人までが1学級の上限となっております。36人の場合は18人ずつの2学級となるという風な基準になっております。

それらの基準から考えると現在の白方小学校は、学校の規模が小さいと言えます。

しかし、先程、答弁をさせて頂いたとおり、少人数校のメリット・デメリットを理解した上でメリットを活かし、デメリットを補うことが大切だと考えております。

現在の白方小学校は、新しい学習棟などの整った設備、豊かな自然環境、歴史や文化を身近で学べる環境、地域の持つ教育力など教育環境として魅力的な面も数多くあります。

教育委員会と致しましても、どの様な支援が必要なのか、学校とともに考え、地域の長所を生かした学校運営に協力してまいろうと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（金井 浩三）

有難うございます。ある人は、複式学級でやっているのかという人もいました。複式学級というのは、どういうことなのか教えて下さい。

教育長（三木 信行）

金井議員の複式学級についてのご質問に答弁をさせていただきます。

複式学級とは他の学年と合わせて1学級を編成する学級編成で、文部科学省より基準が定められています。

その基準では、小学校の引き続く2つの学年の児童の数の合計数が16人以下である場合（ただし、1年生を含むときは8人）とされています。

現在の白方小学校は3年生が7人、4年生が6人、2学年合計で13人ですので、複式学級を編成しなければなりません。県費で配置された加配教員を活用し、単学級編成をしております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（金井 浩三）

白方小学校で多度津町が支払いしている支援員、用務員さんが何名おられて年間幾ら支払っているのですか、お答え下さい。

教育長（三木 信行）

金井議員の町費で支出している支援員等の人数及び費用についてのご質問に答弁をさせていただきます。

現在、白方小学校には、児童・生徒へのきめ細かな学習支援・相談を一層充実させ、学習上のつまずきの解消や学習意欲の向上を図るために配置する学力向上支援員を2名、特別な支援を必要とする児童・生徒の安全を確保し、生活補助・学習習慣の支援を行うために配置する特別支援教育支援員を1名、学校用務員を1名、合計4名の会計年度任用職員を採用しております。

配置に係る費用につきましては、1人当たり年間約200万円の予算計上をしておりますので、4名で約800万円の予算を必要とします。以上、答弁とさせていただきます。

議員（金井 浩三）

私はそろそろ白方小学校、四箇小の統合について真剣に考える時が来ていると思います。

5～6年先を見据えて、今後検討すべきだと思います。それは本町の未来を担う大切な子どもたちのためにも必要と思うからです。

そこで町長のお考えをお伺いします。

町長（丸尾 幸雄）

金井議員の白方小学校と四箇小学校の統合についてのご質問に答弁をさせていただきます。

少子高齢化の波の中で、町内の児童数の減少は確実に進み、地域差が顕著となって来るとされていることや耐震化は完了したものの、建築から50年を超える校舎は、子どもたちの安心・安全を確保するために同時期に修繕・大規模改造・改築することを余儀なくされております。

このような現状を踏まえると、小学校の適正規模・適正配置に係る事業につきましては、将来、実施しなければならないことだと考えております。

ただし、これまでの議会での一般質問等でも答弁致しましたが、教育委員会の基本方針にもあるとおり、幼稚園の適正規模・適正配置に係る事業を先行して実施する必要があると考えております。

小学校につきましては、各地区で地域コミュニティの核となっていることもあり、今後の地域社会の維持・発展や地域住民の気持ち等にも配慮する必要があることから、子どもの教育環境の整備と併せて慎重に検討する必要があると考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（金井 浩三）

有難うございます。次に、運動会について質問します。

学校行事は地域とともにあると思っておりますが、令和5年度の運動会は、低学年、中学年、高学年と時間配分をし、内容も地域の方が関わることが一つもなくなりました。今後ともこのやり方でいくのですか、お答え下さい。

教育長（三木 信行）

金井議員の運動会の運用方法についてのご質問に答弁をさせていただきます。

本年度の運動会につきましては、運用の方法は、それぞれであったものの、全ての小学校において午前中で開催となりました。

これは、新型コロナウイルス感染症の5類移行があったものの、感染対策と合わせて学校行事の見直し精選や保護者負担を軽減することなどから、従来からの運動会の内容が変更されたものだと思います。

今後の運動会の運用方法につきましては、本年度の良かった点や反省点を検証し、実施時間やプログラム内容を含め、改善出来るところは改善出来るよう校園長会等の場を中心に検討してまいります。以上、答弁とさせていただきます。

議員（金井 浩三）

以上で、私の一般質問を終わります。

有難うございました。